

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495100323		
法人名	社会福祉法人大樹		
事業所名	グループホーム木だち	ユニット名	1階
所在地	仙台市青葉区西勝山21-15		
自己評価作成日	平成27年 12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成27年4月1日に開所しました。『常に最前を尽くせるように、皆が一丸となり、一人のために考えながら行動します』という理念を掲げ、地域の方々とも一緒に、皆様に充実した生活を送っていただけるよう、取り組んでおります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

西勝山入口の閑静な住宅地に立地し、泉ヶ岳や仙台大観音が望める日当たりの良い2階建ての施設である。開設前に管理者と職員一丸となって同地区にある法人施設の運営推進会議に出席し、開設の案内、内覧会開催の回覧をお願いをする等、地域住民とのふれあいと利便性向上に奮闘した。その効果があり5月に満床となった。若い介護職員の多い活気溢れるホームは、常に明るく、笑い声が絶えない。駐車場の一角に野菜畑やプランターでの花壇作り、マイクを持って思いっきり歌を楽しんでほしいと大型カラオケ装置の購入等起案書を提出している。入居者中心の介護を目指した良質なサービスの提供に取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成28年 1月22日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **グループホーム 木だち**)「ユニット名 **1階** 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で話し合い、常に地域にあることを踏まえながら、実践している。	開設時に入居者、家族、地域との連携を密にし、共に支え合う事を基にした事業所理念と方針を作成した。玄関、事務所の壁に掲げ、日々意識して実践に繋げている。年度末に見直し、取り組みについて話し合う。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内清掃活動、イベントがあるごとに案内や声をかけていただき参加している。	町内会に加入し、夏祭り、文化祭、月1回の町内清掃活動(公園や周辺の草取り)に参加している。入居者の作品を文化祭に出展、行事に住民招待を考えている。子供会の来訪での、すずめ踊りは入居者は大喜びした。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学者や来訪者には認知症のある利用者についての理解を深めていただきながら、支援方法などについて説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月に1回運営推進会議において報告・話し合いを行っており、ご入居者様、ご家族様代表、町内会長、福祉部、民生委員、地域包括支援センターと共に意見交換を行い、参考意見等いただきながら実践に努めている。	5月より奇数月に開催している。初回に「運営推進会議の社会的価値・意義」を話し、協力関係を密にすることを確認した。町内会新年会の誘い、一人暮らしや老人世帯の見回り、緊急時の名簿作成等話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	積極的ではないが、必要に応じてご利用者様のおかれている家庭状況などで相談することがある。	生活保護の受け入れ相談や空き状況の報告等、開所前から連携を図っている。北山市民センターでの市民医学講座、認知症をささえる家族の会等に参加している。市の介護職員スキルアップ研修や実地指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修にて虐待や身体拘束、その他拘束となり得る行為等について理解を深めながら実践している。	介護職経験者が殆どで、身体拘束の内容とその弊害を理解している。開設前から管理者が講師となり勉強会を開催し、更に認識を深めケアの実践に繋げている。現在、外へ出たい方はいない。転倒防止のため、夜間のみ居室で卓上センサーを利用している方がいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修時に話し、虐待防止に徹底的に取り組んでいる。現在のご利用者では虐待となることは行なわれていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や外部研修に参加した職員などからの報告研修にて学ぶ機会を設けている。現在は活用の必要性のあるご利用者様はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問点の無いよう十分な説明を行い、署名捺印を頂いている。後日の問い合わせにも対応し理解いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口を設けているが、中々ご意見をいただけなかったので、「ご意見・ご要望書」を手渡ししたが意見や要望はあまりなかった。	全員の家族の面会が月1回以上はあるので、要望や意見を聞く機会はある。「笑顔が多くなった」「顔色がよくなった」等の感謝の言葉が多い。毎月の広報誌を、地方に住む家族にも送ってほしいとの要望に応じた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている会議で職員の意見を聴き、情報を伝達し合いながら、必要に応じて日々の生活に反映している。	ヒヤリハット等に遭遇した時の声かけの仕方等、気が付いた時に注意し話し合っている。手すりの増設、ホットキャビ、大型カラオケセットの購入等職員の提案を反映させた。新人教育の方法としてプリセクター制度を導入している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人での運営会議にて、随時報告を行っている。又、職員面談を行い、普段の接遇に対して自己振り返りの機会を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修、内部研修会には積極的に参加している。外部研修には年間予定を組み、参加希望(予定)者をあらかじめ決めて申し込んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修には積極的に参加しており意見交換を行っている。認知症実践者研修を受講している職員も多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時にご本人様とご家族様に面談し、要望や現在不安になっていることなどを聴きながら、受け止め、一緒に解決していく方法を常時話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時にご本人様、ご家族様に面談し、要望や現在不安になっていることなどを聴きながら、これからの生活に対する前向きなことを話合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様、ご家族様、職員間でもよく話し合い、支援方針を決定している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	誕生日会や地域行事に出向いたり、家族にも参加して頂くイベントでも一緒に楽しみながら行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方にお住まいの家族の方でも気軽に来ていただき、一緒にイベントや居室での一時を過ごしていただきながら、日頃の状況も伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室に行っていたりご家族様はもちろん、ご友人、知人など面会にいらっしやる。また希望を聞きながら戸外へドライブに出掛けたり、ご家族様と話し合い外出をしていたり機会を多く取り入れている。	毎年行っていた賀茂神社へ初詣、馴染みのレストランへ誕生日に行く等家族の協力を得て、外出支援をしている。友人や知人、親戚の訪問が多く、談話室や部屋でゆっくり話ができるよう雰囲気作りをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方々との関係を大切にする支援を心掛けている。無理強いはなくご利用者から積極的に行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了した方はまだいないが、いつでも相談をしていただけるような雰囲気作りを心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望に感心を持ち、ご家族様と相談しながら検討し、介護計画へ反映している。	意思表示の難しい方は、表情、動作から思いを把握し、ipadに入力し情報を共有している。話し易い職員に、散歩や入浴時に「実は～」と話す。付き合いの苦手な方は、1対1で出来ることを工夫しながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用前にご本人様、ご家族様、(必要に応じて前ケアマネや医療機関の地域医療連携室)から、できるだけ詳しく聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況・心身の状態を把握し有意義に過ごしていただけるように、家事には積極的に参加いただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様の要望とその必要度に添うようにするため、職員間で毎月話し合う場を持ち、介護計画に反映している。	ipadに入力した生活リズム表やケア記録、月1回のユニット会議で話し合った事を基に、3ヶ月毎に見直し更新している。環境に慣れて来て、歩行にふらつきがなくなり、失敗も減り、落ち着いてきている方が多い。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を活用しながら介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃からご利用者様やご家族様のその時々状況を見極めたうえで、役割を明確にし、要望に応じた支援が出来るように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	できるだけその方の地域資源を把握しながら、行なっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への通院等には職員が付き添いをし主治医へ日頃の生活状況を伝えている。	理事長のクリニックへ、週1回通院している。身体状況により往診、月2回の通院等対応している。受診結果は「通院ノート」に記載し、職員に周知している。訪問看護ステーションと24時間オンコール体制が整備されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約しており、医療面の相談やアドバイスをいただいている。看護師から主治医への報告なども行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	まだ入院された経緯はない		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様には、入居ご契約時にターミナルケアについての方針を十分に話し合い、施設側でできることなど伝えている。	「重度化した場合における対応に係る指針」を成文化している。医療連携体制が整い、状況の変化に応じて繰り返し話し合いを行い、家族に安心と納得が得られる支援に取り組んでいる。「看取りケアと介護職の役割・グリーフケア」の研修を、予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応方法、応急手当方法など学んでいるが、定期的ではない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会長を中心に、地域住民とともに災害に備えた日中、夜間想定避難訓練を行っている。	開所前の3月、8月に日中、12月に夜間想定で訓練を実施した。次回は消防署立ち合いで行う予定である。誘導前に外へ出る方がいる、避難誘導の順番や2階入居者の避難の方法等を話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇には十分に配慮することを心がけ、その方の自尊心、プライバシーを考えながら対応している。	トイレ誘導の声がけは、さり気ない言葉使いに配慮している。入居者との関係に慣れた頃に発する言動に不具合を感じた時、その場で、相手が入居者か、外部者か、職員同士なのかを振り返る指導をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が主体となり普段の会話や声掛けから、ご本人の思い、気持ちを知る機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望を大切にし、個人のペースに合わせた生活をしていただけるように、ご家族様に相談したり普段の生活から気持ち把握に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の起床時に髭剃りや整容をご利用者様とともにに行ったり、訪問理美容などを利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭での延長として、職員と一緒に調理や下膳、後片付けを行っている。ご利用者様の好き、食べられないもの、嗜好品を取り入れている。	クックチルを利用している。彩りや要望を取り入れた一品を、調理して加えている。職員の検食を希望する。ホットケーキや焼きそばと一緒に作って食べる。行事食、定義山でおにぎりの外食等食を楽しくする工夫がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様一人ひとり個別に食事量や好み把握してお出ししている。食事毎、おやつ時、その他随時声掛けし水分補給を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがい、ブラッシングを声掛け、サポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄状況や習慣を把握し、随時トイレへの声掛け、誘導を中心とし、ご家族様と相談しながらできる限りおむつは使用しないような取組みを行っている。	入居者全員が布パンツ、リハビリパンツでトイレで排泄し自立している。適切な誘導で、自宅でオムツだった方がパンツに、パッドが必要なくなった方等の現状を維持できるよう支援している。夜間は自室のトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日午前中は身体を動かすこと、午後は指先を動かすことをできるだけ実践している。また昼食には牛乳を摂っていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に沿った入浴を心がけ、時間を気にしない声掛けを行っている。	週2～3回を基本としている。強く拒む方はいない。タオルを渡すと自分で洗う。背中や洗髪等手の届かない部分を介助している。必ず1対1の対応で、会話をしながら、ゆっくり楽しんでいる。ゆず湯や入浴剤の工夫がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温度や湿度には特に配慮し、快適に休んでいただけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的に通院し、主治医からの説明を聞いている。また変更や追加になった場合においては処方された薬の説明書をいただき、用法、用量の確認と声掛け、服薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	主に午後からの活動が多いが、手先を動かすことが好きな方には季節に合わせたはり絵や手芸を行ったり、気分転換にドライブ、個別外出を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月行事を企画し、季節に沿った催し行ったり、ドライブに出掛けたりしている。また、ご利用者様やご家族様からの希望で個別にも外出を行っているが、外出により混乱してしまう方などには行っていない。	「レクリエーションを毎日」を目標としている。ゲームやカラオケ、軽体操、近隣の散歩、買い物等体を動かし、元気に楽しく過ごすよう支援している。錦ヶ丘へ新緑、定義山へ紅葉等季節を感じる外出をしている。花の好きな方が多いので、花見外出をしたいと取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事前にご家族様より持っている金額の報告をいただいております。金銭の所持は制限していません。外出時に使用されたり、近所の商店へ散歩がてら出掛けてお菓子など買ってこられています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方にお住まいのご家族様と、手紙のやり取りをされている方がいらっしゃる。電話の貸し出しは普段あまりないが、希望があれば貸出を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者作成のちぎり絵や七夕など季節の行事を取り入れるようにしている。共用の場合は、掃除チェック表などを作成し、不快がないようにすると共に、随時、衛生や感染症の危険回避の為に掃除や片付けを行っている。	広い食堂は、窓から泉ヶ岳や仙台大観音が望め、日当たりが良く明るい。壁に掲げた作品は1ヶ月毎に変えている。毎日、入居者と職員で掃除機とモップ掛けをして清潔を保っている。廊下等にソファを置き、仲良しで談話、1人になる等思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士の交流に心掛け、お茶を飲みながら談笑されたり、ソファでゆったりしていただけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室ドアには表札があり、居室内も使い慣れた寝具類、タンスなどお持ち込みいただいている。	表札に避難の方法(□は介助、○は自立)が分かるようになっている。使い慣れた馴染みのテーブルと椅子、整理タンスが持ち込まれ、家族の写真、趣味のギター、作品が飾られ、居心地の良い自分の部屋である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全居室に洗面台、トイレが設置されており、廊下、浴室、トイレに手すりが設置してある。各扉には表示されており、間違えてしまわれることは少ない。		

平成 27 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495100323		
法人名	社会福祉法人大樹		
事業所名	グループホーム木だち	ユニット名	2階
所在地	仙台市青葉区西勝山21-15		
自己評価作成日	平成27年 12月20日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成28年 1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>平成27年4月1日に開所しました。『常に最前を尽くせるように、皆が一丸となり、一人のために考えながら行動します』という理念を掲げ、地域の方々とも一緒に、皆様に充実した生活を送っていただけるよう、取り組んでおります。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>西勝山入口の閑静な住宅地に立地し、泉ヶ岳や仙台大観音が望める日当たりの良い2階建ての施設である。開設前に管理者と職員一丸となって同地区にある法人施設の運営推進会議に出席し、開設の案内、内覧会開催の回覧をお願いをする等、地域住民とのふれあいと利便性向上に奮闘した。その効果があり5月に満床となった。若い介護職員の多い活気溢れるホームは、常に明るく、笑い声が絶えない。駐車場の一角に野菜畑やプランターでの花壇作り、マイクを持って思いっきり歌を楽しんでほしいと大型カラオケ装置の購入等起案書を提出している。入居者中心の介護を目指した良質なサービスの提供に取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム 木だち)「ユニット名 2階 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で話し合い、常に地域にあることを踏まえながら、実践している。	開設時に入居者、家族、地域との連携を密にし、共に支え合う事を基にした事業所理念と方針を作成した。玄関、事務所の壁に掲げ、日々意識して実践に繋げている。年度末に見直し、取り組みについて話し合う。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内清掃活動、イベントがあるごとに案内や声をかけていただき参加している。	町内会に加入し、夏祭り、文化祭、月1回の町内清掃活動(公園や周辺の草取り)に参加している。入居者の作品を文化祭に出展、行事に住民招待を考えている。子供会の来訪での、すずめ踊りは入居者は大喜びした。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学者や来訪者には認知症のある利用者についての理解を深めていただきながら、支援方法などについて説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月に1回運営推進会議において報告・話し合いを行っており、ご入居者様、ご家族様代表、町内会長、福祉部、民生委員、地域包括支援センターと共に意見交換を行い、参考意見等いただきながら実践に努めている。	5月より奇数月に開催している。初回に「運営推進会議の社会的価値・意義」を話し、協力関係を密にすることを確認した。町内会新年会の誘い、一人暮らしや老人世帯の見回り、緊急時の名簿作成等話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	積極的ではないが、必要に応じてご利用者様のおかれている家庭状況などで相談することがある。	生活保護の受け入れ相談や空き状況の報告等、開所前から連携を図っている。北山市民センターでの市民医学講座、認知症をささえる家族の会等に参加している。市の介護職員スキルアップ研修や実地指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修にて虐待や身体拘束、その他拘束となり得る行為等について理解を深めながら実践している。	介護職経験者が殆どで、身体拘束の内容とその弊害を理解している。開設前から管理者が講師となり勉強会を開催し、更に認識を深めケアの実践に繋げている。現在、外へ出たい方はいない。転倒防止のため、夜間のみ居室で卓上センサーを利用している方がいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修時に話し、虐待防止に徹底的に取り組んでいる。現在のご利用者では虐待となることは行なわれていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や外部研修に参加した職員などからの報告研修にて学ぶ機会を設けている。現在は活用の必要性のあるご利用者様はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問点の無いよう十分な説明を行い、署名捺印を頂いている。後日の問い合わせにも対応し理解いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口を設けているが、中々ご意見をいただけなかったので、「ご意見・ご要望書」を手渡ししたが意見や要望はあまりなかった。	全員の家族の面会が月1回以上はあるので、要望や意見を聞く機会はある。「笑顔が多くなった」「顔色がよくなった」等の感謝の言葉が多い。毎月の広報誌を、地方に住む家族にも送ってほしいとの要望に応じた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている会議で職員の意見を聴き、情報を伝達し合いながら、必要に応じて日々の生活に反映している。	ヒヤリハット等に遭遇した時の声かけの仕方等、気が付いた時に注意し話し合っている。手すりの増設、ホットキャビ、大型カラオケセットの購入等職員の提案を反映させた。新人教育の方法としてプリセクター制度を導入している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人での運営会議にて、随時報告を行っている。又、職員面談を行い、普段の接遇に対して自己振り返りの機会を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修、内部研修会には積極的に参加している。外部研修には年間予定を組み、参加希望(予定)者をあらかじめ決めて申し込んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修には積極的に参加しており意見交換を行っている。認知症実践者研修を受講している職員も多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時にご本人様とご家族様に面談し、要望や現在不安になっていることなどを聴きながら、受け止め、一緒に解決していく方法を常時話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時にご本人様、ご家族様に面談し、要望や現在不安になっていることなどを聴きながら、これからの生活に対する前向きなことを話合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様、ご家族様、職員間でもよく話し合い、支援方針を決定している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	誕生日会や地域行事に出向いたり、家族にも参加して頂くイベントでも一緒に楽しみながら行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方にお住まいの家族の方でも気軽に来ていただき、一緒にイベントや居室での一時を過ごしていただきながら、日頃の状況も伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室に行っていたりご家族様はもちろん、ご友人、知人など面会にいらっしやる。また希望を聞きながら戸外へドライブに出掛けたり、ご家族様と話し合い外出をしていたり機会を多く取り入れている。	毎年行っていた賀茂神社へ初詣、馴染みのレストランへ誕生日に行く等家族の協力を得て、外出支援をしている。友人や知人、親戚の訪問が多く、談話室や部屋でゆっくり話ができるよう雰囲気作りをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方々との関係を大切にする支援を心掛けている。無理強いはなくご利用者から積極的に行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了した方はまだいないが、いつでも相談をしていただけるような雰囲気作りを心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望に感心を持ち、ご家族様と相談しながら検討し、介護計画へ反映している。	意思表示の難しい方は、表情、動作から思いを把握し、ipadに入力し情報を共有している。話し易い職員に、散歩や入浴時に「実は～」と話す。付き合いの苦手な方は、1対1で出来ることを工夫しながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用前にご本人様、ご家族様、(必要に応じて前ケアマネや医療機関の地域医療連携室)から、できるだけ詳しく聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況・心身の状態を把握し有意義に過ごしていただけるように、家事には積極的に参加いただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様の要望とその必要度に添うようにするため、職員間で毎月話し合う場を持ち、介護計画に反映している。	ipadに入力した生活リズム表やケア記録、月1回のユニット会議で話し合った事を基に、3ヶ月毎に見直し更新している。環境に慣れて来て、歩行にふらつきがなくなり、失敗も減り、落ち着いてきている方が多い。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を活用しながら介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃からご利用者様やご家族様のその時々状況を見極めたうえで、役割を明確にし、要望に応じた支援が出来るように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	できるだけその方の地域資源を把握しながら、行なっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への通院等には職員が付き添いをして主治医へ日頃の生活状況を伝えている。	理事長のクリニックへ、週1回通院している。身体状況により往診、月2回の通院等対応している。受診結果は「通院ノート」に記載し、職員に周知している。訪問看護ステーションと24時間オンコール体制が整備されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約しており、医療面の相談やアドバイスをいただいている。看護師から主治医への報告なども行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	まだ入院された経緯はない		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様には、入居ご契約時にターミナルケアについての方針を十分に話し合い、施設側でできることなど伝えている。	「重度化した場合における対応に係る指針」を成文化している。医療連携体制が整い、状況の変化に応じて繰り返し話し合いを行い、家族に安心と納得が得られる支援に取り組んでいる。「看取りケアと介護職の役割・グリーフケア」の研修を、予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応方法、応急手当方法など学んでいるが、定期的ではない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会長を中心に、地域住民とともに災害に備えた日中、夜間想定での避難訓練を行っている。	開所前の3月、8月に日中、12月に夜間想定で訓練を実施した。次回は消防署立ち合いで行う予定である。誘導前に外へ出る方がいる、避難誘導の順番や2階入居者の避難の方法等を話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇には十分に配慮することを心がけ、その方の自尊心、プライバシーを考えながら対応している。	トイレ誘導の声がけは、さり気ない言葉使いに配慮している。入居者との関係に慣れた頃に発する言動に不具合を感じた時、その場で、相手が入居者か、外部者か、職員同士なのかを振り返る指導をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が主体となり普段の会話や声掛けから、ご本人の思い、気持ちを知る機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望を大切にし、個人のペースに合わせた生活をしていただけるように、ご家族様に相談したり普段の生活から気持ち把握に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の起床時に髭剃りや整容をご利用者様とともにに行ったり、訪問理美容などを利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭での延長として、職員と一緒に調理や下膳、後片付けを行っている。ご利用者様の好き、食べられないもの、嗜好品を取り入れている。	クックチルを利用している。彩りや要望を取り入れた一品を、調理して加えている。職員の検食を希望する。ホットケーキや焼きそばと一緒に作って食べる。行事食、定義山でおにぎりの外食等食を楽しくする工夫がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様一人ひとり個別に食事量や好み把握してお出ししている。食事毎、おやつ時、その他随時声掛けし水分補給を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがい、ブラッシングを声掛け、サポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄状況や習慣を把握し、随時トイレへの声掛け、誘導を中心とし、ご家族様と相談しながらできる限りおむつは使用しないような取組みを行っている。	入居者全員が布パンツ、リハビリパンツでトイレで排泄し自立している。適切な誘導で、自宅でオムツだった方がパンツに、パッドが必要なくなった方等の現状を維持できるよう支援している。夜間は自室のトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日午前中は身体を動かすこと、午後は指先を動かすことをできるだけ実践している。また昼食には牛乳を摂っていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に沿った入浴を心がけ、時間を気にしない声掛けを行っている。	週2～3回を基本としている。強く拒む方はいない。タオルを渡すと自分で洗う。背中や洗髪等手の届かない部分を介助している。必ず1対1の対応で、会話をしながら、ゆっくり楽しんでいる。ゆず湯や入浴剤の工夫がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温度や湿度には特に配慮し、快適に休んでいただけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的に通院し、主治医からの説明を聞いている。また変更や追加になった場合においては処方された薬の説明書をいただき、用法、用量の確認と声掛け、服薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	主に午後からの活動が多いが、手先を動かすことが好きな方には季節に合わせたはり絵や手芸を行ったり、気分転換にドライブ、個別外出を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月行事を企画し、季節に沿った催し行ったり、ドライブに出掛けたりしている。また、ご利用者様やご家族様からの希望で個別にも外出を行っているが、外出により混乱してしまう方などには行っていない。	「レクリエーションを毎日」を目標としている。ゲームやカラオケ、軽体操、近隣の散歩、買い物等体を動かし、元気に楽しく過ごすよう支援している。錦ヶ丘へ新緑、定義山へ紅葉等季節を感じる外出をしている。花の好きな方が多いので、花見外出をしたいと取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事前にご家族様より持っている金額の報告をいただいております。金銭の所持は制限していません。外出時に使用されたり、近所の商店へ散歩がてら出掛けてお菓子など買ってこられています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方にお住まいのご家族様と、手紙のやり取りをされている方がいらっしゃる。電話の貸し出しは普段あまりないが、希望があれば貸出を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者作成のちぎり絵や七夕など季節の行事を取り入れるようにしている。共用の場合は、掃除チェック表などを作成し、不快がないようにすると共に、随時、衛生や感染症の危険回避の為に掃除や片付けを行っている。	広い食堂は、窓から泉ヶ岳や仙台大観音が望め、日当たりが良く明るい。壁に掲げた作品は1ヶ月毎に変えている。毎日、入居者と職員で掃除機とモップ掛けをして清潔を保っている。廊下等にソファを置き、仲良しで談話、1人になる等思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士の交流に心掛け、お茶を飲みながら談笑されたり、ソファでゆったりしていただけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室ドアには表札があり、居室内も使い慣れた寝具類、タンスなどお持ち込みいただいている。	表札に避難の方法(□は介助、○は自立)が分かるようになっている。使い慣れた馴染みのテーブルと椅子、整理タンスが持ち込まれ、家族の写真、趣味のギター、作品が飾られ、居心地の良い自分の部屋である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全居室に洗面台、トイレが設置されており、廊下、浴室、トイレに手すりが設置してある。各扉には表示されており、間違えてしまわれることは少ない。		